第３学年国語科学習指導案

児　童　３年１組　男17名　女10名　計27名
指導者　川　村　節　子

叙述を基に想像して読むために，対話を活用する指導の在り方

１　単元名　　学習したことを生かして　（学習材名「モチモチの木」　光村３年下）

２　単元について

⑴ 児童の実態

児童は，これまでに，「読むこと」の前単元「ちいちゃんのかげおくり」では，叙述を基に場面の移り変わりや情景を想像して読み，自分の考えをまとめる学習をしてきた。「話すこと・聞くこと」の前単元「名前を付けよう」では，係やポートボールチームの名前を決める活動を通して，お互いの考えの合意点を見つけ，物事を一つに決めていくために聞き合う学習をしてきた。これらの学習を通して，叙述を基に想像する力や，自分と相手との考えの違いを聞き分ける力が徐々に付いてきている。しかし，叙述を基に想像したことを自分なりの言葉で表す力や，互いの相違点や共通点を考えながら物事を一つに決めていく力が十分に付いているとはいえない。

これらのことから，児童が主体的に学習活動を工夫して取り組む場を設定し，対話を活用して自分の考えを出し合ったり，相違点は何か共通点は何かということに気を付けて聞き，考えを整理しながら聞き合ったりする力を付けていくことが大切であると考える。

⑵ 主たる指導事項と学習材

（Ｐ１６参照）

⑶ 指導に当たって

（Ｐ１６参照）

３　単元の目標

（Ｐ１７参照）

４　単元の評価規準

（Ｐ１７参照）

５　学習指導計画（１７時間扱い）

（Ｐ１７参照）

6　本時の指導

（1）ねらい

じさまのことばの意味を聞き合うとともに，この作品のおもしろさを自分なりにまとめることができる。

（2）展開

段階	学　習　活　動 （○主発問）	時間 (分)	◇学　習　内　容	教師の関わり ☆評　価（方法）
みとおす	1　前時の学習を想起する。 2　学習課題を確認する。 じさまが豆太に何を伝えたかったのか考えてまとめよう。	3	◇前時学習の場面から，豆太が勇気を出したことを想起すること。	・豆太がモチモチの木に灯がともったのを見たことを思い出させる。
ふかめる	3　課題を解決するためにじさまの言葉を読み取る。 （1）学習場面を読む。 ○じさまの言ったことについて考えながら読みましょう。 （2）対話で考えたい言葉や文を柱にして，対話をする。 ○二人で考えたい言葉や文のところから対話を進めましょう。 (3)全体で確かめる。 （4）豆太の成長を読み取る。 ○豆太は，やっぱり臆病豆太なのでしょうか。 4　このお話のよさを書きまとめる。 ○このお話のおもしろかったところ，いいなと思ったところをノートに書きましょう。	2 8 12 8 10	◇じさまの言った勇気ややさしさの意味を理解すること ・「山の神様のお祭りを見たんだ」 （ちゃんと自分の目で見たんだということ） ・「おまえは勇気のある子どもだったんだからな。」 （モチモチの木が怖くて，一人でせっちんにも行けなかった豆太が，じさまを助けようと思い，暗い夜道を一人で走ってお医者様を連れてきたこと） ・「自分で自分を弱虫だなんて思うな。人間やさしささえあれば，やらなきゃならねえことは，きっとやるもんだ。」 （「やさしさ」は，勇気のあらわれであること） ◇またじさまを起こす豆太のおもしろさをとらえること ・「ーそれでも，…おこしたとさ」 （やっぱりじさまを起こしているけれど，勇気を出せた豆太だから，前の豆太とはちがうこと） ◇「モチモチの木」のよさを自分なりにつかむこと ・わたしは，おくびょうな豆太が，勇気を出してじさまを助けたけれど，またもとの豆太に戻ってしまった，お話の進み方がおもしろかった。 ・わたしは，どんなにおくびょうでもやさしい心でじさまを助けた豆太の気持ちがいいなと思った。	・具体的に豆太の行動を考えさせることで，じさまの言った言葉の意味を考えるようにする。 ・全体に報告しあうことで「弱虫」や「やさしさ」「やらなきゃならないこと」という言葉の意味を確かめ，価値づける。 ・「―それでも，豆太は，じさまが元気になると」のところに触れて，臆病豆太にもどったところを読んで，豆太の成長を考えさせる。 ☆友達との対話で聞き合ったことをもとに，「モチモチの木」のよさを書きまとめている。 （ノート・発言） 【努力を要する児童への手立て】 ・友達との対話で聞き合ったことを思い出させたり，対話のために書いたことを見なおしたりして，書きまとめさせる。
まとめる	5　本時学習のまとめをする。 6　次時の学習について確かめる。	2	◇本時の課題についてふり返ること。	・次時には，自分がまとめたお話のよさを生かして発表会の内容を考えていくことを伝える。